

7日目 和田宿 -22.6Km- 諏訪宿

4月17日の夕刻に和田に到着し民宿で一泊、民宿の主人によれば、天気予報では17日は19℃の予定が、11℃までしか上がらず、更に和田宿(標高800m)の18日の予報は0℃、越える予定の和田峠は標高1530mなので、多分氷点下2~3℃とのこと。当地は北海道と同程度の気温で、5月に雪が降ることもあるらしい。同宿の人は、東海道は踏破済みで、既に延べ10日以上かけて日本橋から歩いてきており、本日は同じ新幹線に乗っていて、佐久平からバスに乗り、芦田宿からゆっくりと歩き、既に和田峠の1100mの地点まで歩いている。トレッキングシューズに作業ズボンの私に対し、その人は登山靴にスパッタの本格的な登山装備なので、2時間程後発する私はその人の足跡を辿っていけば良いと一安心。「熊出没」についてもその人が「露払い」となるだろうし、などと勝手に考えてしまう。

7日目の4月18日、起きて見ると屋外の車の窓は霜で真っ白、前日と異なり、雲一つ無いきれいな青空で風も殆ど無い。朝食を取り、昼食用に作ってもらった大きなお握り2個を受取り、これだけ寒いと残雪は固くて歩きやすいと勝手に解釈し、持ってきたものを全て着込み、民宿の主人に前日到達地点まで車で送ってもらう。

和田峠越え

7時半、芹沢1里塚から和田峠越えをスタート、同宿の人は歩く時間にして2時間ほど私よりも先行している。しばらく歩くと暑くなり、来ているものを1枚ずつ脱いでいく、日差しが眩しく、サングラスをかける。2時間程歩くと唐沢一里塚で中山道は一般道からそれて山道となり、小さな一山を越えると又一般道になり、それを繰り返しながら次第に高度が上がって行き、1100m地点に達したのは10時頃。

唐沢一里塚



標高1100mの道路標識



中山道は自動車道になったり、山道になったり、自動車道の時は歩道が片側にあったり、無かったり、その片側の歩道も右側だったり、左側だったり。手書きの中山道の標識が曲がり道に必ずついていて親切なのだが、歩いている側と逆の側に標識があって見落としてしまい、30分歩いて間違いに気が付いて標識のあるところまで逆戻り。

前から歩いてくる人があり、挨拶を交わして聞くと、諏訪からバスで来て、和田峠を越えてからバスを降り、歩いて和田宿へ向かっているとのこと。私がこれから峠を越えると知ると、同行することを考えたらしく、二つの質問をしてきた。一つ目は雪対策、私は2時間程先行している人がいるので、その足跡を辿っていくと返事。二つ目は、熊鈴を持っているのか、もちろん持っていない。熊対策はどうするのかとの質問に対しては、「人里に現れる熊は鈴程度では驚かないし、熊に会う確率は非常に低い」と返事した。で、結局その人は峠越えを断念し和田宿へ歩いて行った、やれやれ。大体、宝くじに当たらないのに熊に当たるはずがない!

接待所と巡査殉職碑

やがて「接待所」にたどり着いた、これは江戸時代からの建物で、中は土間になっていて炉が作ってあり、屋内で煮炊きができるようになっている。その近くに「近藤谷一郎巡査 殉職の地」と書かれた石碑があった。ネットで調べると「明治 22 年近藤谷一郎巡査が護送中に逃走した犯人を捕まえようこの付近の谷川で格闘となり、腹部を刺され殉職したということの供養碑」とのこと、明治時代の話だった。

接待所



近藤谷一郎巡査
殉職の地



雪道

中山道は自動車道を離れて山中へ深くは行って行きき、チラホラとあった残雪の塊が次第に大きくなり、雪に覆われた箇所が増えてくる。手頃な枯れ枝を見つけて杖を作り、先行者の足跡を辿りながら雪道を上がっていく。杖があるとなんとなく心強い、熊が出てきたらこれで追い払おうと「イメージトレーニング」をする。現実的に考えるとこんな細い枝が役に立つとは思えないが、まあ気分の問題ですな。

雪の面積が増えてきた



山道が雪で覆われてきた、右は避難小屋



先行者の足跡



雪の深さを 30cm を越えるが、先行者のおかげで、その足跡に靴を入れながら歩けば特に苦労はない。雪は固くもう少し暖かったら、ベチャベチャの雪で大変なことになるところ、低温でラッキー。

茶色い小動物、多分兎、が現れ、カメラを構える前に跳んで逃げていった。

東の餅屋とトンネル

中山道は、又、自動車道にでて、暫らく歩くと「東の餅屋」にでる。ここには江戸時代に5軒の茶屋があつて餅を売っていたそうで、ガイドブックにはレストランがあると書かれているが、実際は廃業していた。レストランの前に「黒曜石」と書かれているが、この付近は古代に石鏃として使用された黒曜石の産地だったらしい。

廃業していた東餅屋レストラン



半分水路、半分歩道のトンネル



中山道はまた山道となり、雪道を歩いていくと、自動車道の下をくぐるトンネルとなる。このトンネルは、半分が水路、半分が歩道となっている。

冬期で閉じられたゲート



雪の斜面



トンネルを潜り、山道を歩いて自動車道に出ると、冬期なのでゲートはクローズ、自動車はここより上には上れない。

和田峠

自動車道を離れて雪の多い斜面の更に勾配のきつくなった山道を30分程登って峠にたどり着いたのは丁度12時頃、ここは標高1530m。更に上に「御嶽山遥拝所」があるが割愛。峠は風が強く、風下の岩陰を探して昼食の握り飯を食べていると、諏訪側から一人登ってきて、挨拶を交わし、その人も近くに座って昼食。

情報交換をしてお互いに写真を撮りあい、互いの無事を祈って、いざ下山。

峠にて



下山

諏訪側は南面となるので、雪は全くないが、急勾配が多く、しかも倒木で道が塞がれている箇所も多く、歩くのに苦労する。

鹿の死骸を2回見た、両方とも道を遮るように横たわっていて、避けて歩くのに苦労した。一匹は角の立派なオスだった。冬には角は落ちるはずなので、秋より以前からそこにあることになる。種類は分からないが、カラスよりも大きい鳥の死骸もあった。山では、冬は生存するのに厳しい季節なのだろう。

倒木に覆われた中山道

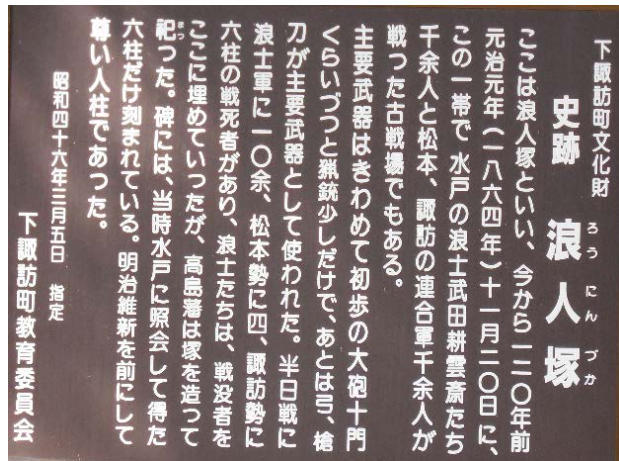


浪人塚の説明

浪人塚

2時間程歩き、山道から一般道になり、浪人塚で小休止、ここは水戸浪士の墓。

浪人塚の碑



更に歩くと、休憩所である「樋橋茶屋本陣」跡があり、標高 1000m の標識があつたので 500m 程下つたことになる。

天下の木落とし坂

「天下の木落とし坂」と大げさな石碑が出現した。その前は急な坂となっており、その坂に少し出っ張って直径 1m を越える大きな丸太が置いてある。

説明板によれば諏訪大社の神事で使う丸太をこの坂から落とすそう。そう言えばテレビで丸太に跨った男達を見たことがある。確か死人がでることもあると言っていた記憶も。まあ、この急坂を丸太に跨って滑っていったら死ぬこともあるわいな。

天下の木落とし坂の碑



木落としに使う丸太、左側が急勾配の坂



右は木落とし神事の説明だが、これを書いた人は地元の人で、きっと若い時には丸太に跨った事があるのだろうな。

この神事に対する熱き思いが伝わってくる文章。

僅かに光っているのが諏訪湖

諏訪大社 御柱木落とし坂
 諏訪大社の御柱祭は、七年目毎年・寛年に行います。規模の大きさ、勇壮・豪快なことは比類なく、天下の大祭として知られています。縦の巨木を奥山から切り出し、社の四角に建てるのですが、山から引き出す「山出し祭」が御柱年の四月、町内を曳行し建立する「里引き祭」を五月に行います。曳行途中、木落とし坂と呼ぶこの急坂で、御柱を引き落とすのが下社山出し祭最高の見せ場「木落とし」です。男意気に駆られる若者たちが、群がりうちまたがった御柱を、100メートル余り、傾斜度四五度近い崖のようになこの木落とし坂頂上から、一気に引き落としします。落下の反動で、若者たちの大半は放り出され御柱とともに転がり落ちる、一帯を埋めつくす大観衆は一瞬息をのみ、驚声と大喚声か沸き上がり、その豪壮さは筆舌に尽くせません。

「男見るなら七年一度
 諏訪の木落とし坂落し」
 と唄われてきました。この木落とし坂での木落しは、下社春宮・秋宮の御柱八本を三日にわたって行います。

下諏訪観光協会



諏訪湖

もうそろそろ諏訪湖が見えても良いはず、と考えてから更に1時間後、遠くに水面が光り、やっと諏訪湖が見えてきた。

下諏訪は標高760m、和田峠からすると800m程下ってきたことになる。

更に1時間程歩いてやっと下諏訪にたどり着く。

下諏訪宿 29番目

宿場の最初にあるのが諏訪大社、この神社は四つの境内、上社(本宮・前宮)と下社(春宮・秋宮)があり、ここはその下社春宮。あまりにも人出が多く、参詣はパス。旧家の多い町並みを辿ると本陣跡があり、立派な旧家には伏見屋の看板がかかっている、中山道古写真展をしていた。温泉地でもあり、各地で湯気が上がり、温泉旅館には「鐵鑛泉」ののれんがあつて、こんな古字を誰が書いたのだと考えてしまう。道沿いの足湯に足を浸けている女性グループもいた。

下諏訪本陣跡



伏見屋



下諏訪宿の温泉旅館



下諏訪のマンホールの蓋



マンホールの蓋

下諏訪のマンホールの蓋は町の木の桜と、町の花のつじをデザインしたもので、町名は書かれていない、地名の無いマンホールの蓋は珍しく初めて見た。

足の豆がつぶれ、ビッコを引き引き下諏訪駅に辿りついたのは16時過ぎ。

「中山道の最難関は碓氷峠」なんてとんでもない。比較にならないほど和田峠はキツイ。

碓氷峠は標高1200m、坂本から軽井沢まで約4時間、それに比べ和田峠は標高1530m、和田宿を出てから下諏訪宿まで約9時間、山道はキツく、更に山道を降りてから下諏訪までのだらだらの下り坂の道の長いこと!

上諏訪まで普通電車で行き、17時の特急スーパーあずさで19時半に新宿に帰着。本日は5.3万歩。歩いた距離は約37Km。

7日目

